

日本看護歴史学会 會報

日本看護
歴史学会
第83号
2025年1月15日

2025年頭所感 日本看護歴史学会のこれから

日本看護歴史学会理事長 田中幸子



田中幸子 理事長

2024年5月31日に看護学教育のモデル・コア・カリキュラム改訂案（以下、改訂案）が出され、文科省から同年8月にパブリックコメントの募集がありました。この改訂案は、看護基礎教育に必要な教育内容について、中央教育審議会や文部科学省の「看護学教育の在り方に関する検討会」、日本看護系大学協議会等で審議され、作成・改訂されたものです。

今回の改定案ではコンピテンシー基盤型教育の実現が打ち出されています。改定案は意見を募集している段階でまだ決定したわけではありませんが、看護学の基礎教育を左右する重要な提案になることと思います。残念ながら明確に「看護の歴史」を教授する項目はみあたりませんでした。しかし、歴史を説明しなければ学生が正しく理解できない部分が相当あるなど私は考えました。たとえば、「プロフェッショナルリズム」の項目では、「看護職の専門性を支える法律・倫理の理解」があります。看護職の法的位置づけ、職権と義務、その意義を理解するには、法律ができるプロセス（歴史）や歴史的な看護の理念・価値観の理解が不可欠となります。また、同項目の「看護職としての倫理的行動」では、涵養する資質・能力として生命倫理・医療倫理等の変遷を説明できる、とされており、歴史を教授しなければ理解できない内容（傍点筆者）となっています。

コンピテンシー基盤型教育では、どのように看護や医療の歴史を教授することによってどのような資質・能力を涵養するのか、そのた

めに大学だけでなく専門学校も含めて、どのように歴史を看護学教育に取り入れていくのかを考え、本学会の内外に公表していく必要があると考えます。今後、本学会の各委員会と相談しながら検討していきたいと思います。

さらに新年度は、昨年度に引き続き、3つの課題に取り組んでいきます。1つには会員の皆様にとって魅力ある学会作りです。看護の歴史研究が面白いと思っていただけるような企画、研究を推進するための企画を実施していきます。研究活動推進委員会の企画で昨年度から学術集会の一般演題発表者から学会優秀賞の表彰を行っています。第1回目の受賞者は、野口理恵会員（テーマ：クリミア戦争における愛徳姉妹会）でした。2つめに情報管理システムの改善で、メール等で適宜学術集会のお知らせなどができるシステム構築を行っています。3つ目は日本学術会議への登録申請の準備です。前回もご説明させていただきましたように、看護系の大学院によっては、日本学術会議に登録されていない学会誌の投稿論文を学位論文として認めないところもあります。これは、若い優秀な研究者の育成に影響し、会員数の減少にもつながる喫緊の課題です。

本学会は研究者だけでなく、看護の歴史に関心のある方であればどなたでも、大歓迎の学会です。看護の歴史に関心をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひ入会を勧めいただき、様々な視点から一緒に看護の歴史を楽しんでいきましょう。

地球温暖化の影響で例年よりも気温が高めですが、体調管理をしっかりと行い、学術集会でお会いできるのを楽しみにしております。今年もどうぞよろしくお願いたします。

第38回日本看護歴史学会学術集会 報告

学術集会長 屋宜譜美子

第38回日本看護歴史学会学術集会が、2024年8月11～12日に開催されました。酷暑の中、遠路ご参加いただきましたこと感謝申し上げます。大規模地震防災対策注意勧告のためご欠席となった方々、苦渋の選択を強いることになり、この場をお借りし深くお詫び申し上げます。

参加者は、会員67名、非会員56名、大学院生2名、看護学生54名、市民24名、合計205名でした。学会運営のアンケート（n=31）では「大変満足56%」「満足37%」でした。これは、ご参加の皆様はじめ、各プログラムをご担当いただいた講師の先生方のお力添え、企画委員、運営委員、実行委員、天理大学医療学部看護学科学生のご協力の賜物と心から感謝いたしております。（以下アンケート自由記述からの引用は【 】で記します。）

第38回学術集会のテーマは「未来に向けて歴史をつなぐのは今」でした。

一日目は、**オープニングセレモニー**で、ご後援頂いた天理市長様、奈良県看護協会会長様、奈良県看護学教育協議会長様、天理大学同窓会長様、そして協賛頂いた天理大学学長様より心温まるエールを頂きました。

記念講演は川嶋みどり先生による「確かな看護の軸足を未来につなぐ」をテーマに講演をいただき【全人的ケアの中身である『尊厳ある生』『生活行動支援』『自然の回復過程を整える』という当たり前ことを当たり前にする大切を再認識できた】というご感想のように、看護職の矜持をもって、看護の軸を全うする意思を行動として顕すエネルギーをいただきました。

二つの**市民講座**・二つの**理事会セッション**・**ランチオンセミナー**が行われ【看護以外にも古くからの伝統を受け継ぐ和紙職人や戦争体験の映像に触れ、本当の平和とは何かを考えさせられた】【幅広いジャンルの講演が聞けてよかつ

た】【戦争・紛争の体験が聞けた。戦争は愚かなこと】【歴史を学ぶ意義がわかった】と受け止められていました。

2日目は、天理大学人文学部の講師による**教育講演・パネルディスカッション、手とお湯のケアの交流セッションNo.1・2**が開催されました。【宗教や民族について幅広く学べ、考えた】【とても興味深いものばかりだった】【手とお湯のケアが体験できてよかった】などの感想が寄せられました。

一般演題は口演発表10題、ポスター発表5題、紙上発表2題が寄せられました。これらの中から今回の学術集会から発足した優秀賞がクロージングの会で授与されました。

交通の便の悪い会場、キャンパス内のご案内も不十分など、行き届かない点が多々ございましたこと深くお詫びいたします。

この学術集会をきっかけにそれぞれの方々が未来に向けた看護を目指したつながりが広がることを願って報告とさせていただきます。



学会 会場風景



パネルディスカッション

第38回日本看護歴史学会学術集会「第1回学会優秀賞」

受賞者名：野口理恵（アジア・ジェンダー文化研究センター 協力研究員）

受賞年月日：2024/8/12

賞の概要：日本看護歴史学会は、1987年8月、看護に関する歴史の新たな方向性と可能性を求め、広く看護歴史を考究することを目的として設立された学会である。本賞は第38回学術集会より会員の研究力向上、新人発掘、学術誌への投稿 奨励を目的として制定された。この度の受賞テーマは「クリミア戦争における愛徳姉妹会」であり、クリミア戦争における女性の看護活動に関して、新たな視座を示したことが評価された。

第39回日本看護歴史学会学術集会のご案内

日本型看護を再考する ―日本の歴史・文化をふまえた看護の展望―

日 時：2025(令和7)年8月9日(土)、10日(日)

会 場：千葉県立保健医療大学 幕張キャンパス 現地開催

集会長：春日広美（千葉県立保健医療大学 健康科学部 看護学科）

第39回学術集会は千葉県での開催になります。千葉県は三方を海に囲まれ、全国で唯一、海拔500m以上の山がない平たい県です。戦前はそのような土地を活かした農業県でしたが、戦後は鉄鋼業を中心とした重工業で日本の高度経済成長を支え、東京湾臨海部に企業城下町を成していました。しかし、近年の製造業界の激しい国際競争、構造不況による企業の統廃合、少子化による人口減少などの大波にさらされ、徐々に地域の様相も変化しています。どの地域も、どの業界も、時代の動きに合わせて努力がされており、それぞれの歴史の「海」を渡っていかなくてはなりません。そのためにはそれまでの歩みを振り返り、精査し、これからを考えることが肝要です。

わが国における近代看護教育が始まって140年になります。当初より英米国の指導者を迎えて、ナイチンゲール方式の教育が始まりました。その教育は欧米の考え方を基盤としていましたが、日本人の生活、考え方、文化にうまく溶け込む看護に変換して浸透していったように思います。しかし、第2次世界大戦後は、GHQの管理指導のもと、アメリカ式看護教育が布かれました。それまでの病院看護は、家族が家で病人を看護するように、鍋釜布団一式を持参しました。ベッドサイドで実際のケアにあたるのも、家族や派出看護婦でした。それは欧米の看護に照らせば前近代的とされ、ドラスティックな改革が行われました。日本の看護の発展に、英国、米国（GHQ）の貢献があったことは疑いの余地はありません。しかしその反面、私たちは長い歴史の中で醸成された日本の社会風土、価値観、人間関係に根差した独自の文化の看護、つまり「日本型看護」をどこかに置いてきてしまった、忘れてしまったということはないでしょうか。戦後の日本の看護が医療モデルから生活モデルへ転換して久しいです。今この時期に、多方面から“日本型看護”を再考し、日本の看護の展望を考える機会にしたいと存じます。

プログラムは、江戸時代まで遡り、日本人は病気のときにはどう過ごし、対処してきたのか、誰が看病をしたのかなど、文化的な側面からお話しいただける講師をお招きし、あらためて日本人の病気療養と看護について考えてみたいと思います。また、日本の医療システムの歴史、GHQによる日本の看護改革について再考する教育講演の企画も進めています。詳細は今後、ホームページでご案内いたします。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



春日広美 学術集会長

編集委員会からのお知らせ

「日本看護歴史学会誌」は年1回、3月末の発行です。投稿受付は6月1日～6月末です。会員の皆様の研究論文の投稿をお待ちしています。投稿された論文は査読とそのやり取りを通じて、できるだけ受理する方針です。紙面の充実を通じて、学会の活性化、看護の歴史研究の発展につなげたいと考えています。投稿規定は学会ホームページをご覧ください。

日本学術会議協力学術研究団体申請にかかる情報提供の意向と調査（継続）

会員の皆様をお願いしておりました本調査ですが、まだ、申請に必要な人数の確保ができておりません。すでにご協力をいただきました皆様には感謝申し上げます。まだ調査がお済でない皆様におかれましては、なにとぞご協力をお願いいたします。この調査は全会員の皆様を対象としております。

下記のQRコード、もしくはURLからご回答をお願いいたします。QRコードが読み込めない、方法がわからない、URLにアクセスできない場合は、学会事務局までメール（office@jsnh.jp）でご連絡いただければと存じます。

<https://forms.office.com/r/rq97uT30CQ>



新入会員紹介(敬称略)

- * ()内は会員番号 2024年5月18日～11月7日入会
- | | |
|---------------|---------------|
| 上原 麻利 (24014) | 中居由美子 (24015) |
| 正藤 倫 (24016) | 松井 達也 (24017) |
| 佐藤千恵子 (24018) | 鈴木のり子 (24019) |
| 熊谷江利子 (24020) | 戸田 千枝 (24021) |
| 山岸 若菜 (24022) | |

編集後記

2024年のノーベル平和賞が、日本原水爆被害者団体協議会(被団協)に授与されたことは大変喜ばしい出来事でした。しかし、第二次世界大戦前のような世界の政治動向が気になる日々です。

(黒)

お知らせ

■事務局から

会員動向 (2024年5月18日～2024年11月7日)

1. 会員数 275名
2. 入会者 9名
3. 退会届を提出した者 11名

※資格喪失者は年度途中のため掲載せず

学会年会費：会計年度 毎年4月1日～3月31日

2025年度より年会費が8,000円となります。

2024年度会費(6,000円)をまだ納入されていない会員の方は速やかに納入をお願いいたします。

2年間会費滞納の場合、退会となり会員資格を失いますのでご注意ください。

新規・再入会手続きは本会ホームページ「入会案内」をご参照ください。

日本看護歴史学会会報 第83号

企画・編集 黒田裕子(太成学院大学)
屋宜譜美子(天理大学)
小田正枝

発行責任者 田中幸子(理事長)

印刷 株式会社 ソウブン・ドットコム

事務局 〒261-0014
千葉県千葉市美浜区若葉2丁目10番1号
千葉県立保健医療大学
健康科学部看護学科内
事務局 春日広美
E-mail office@jsnh.jp

学会HP <http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/>